

レンジフード取付説明書

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

● 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他人への危害や損害を未然に防止するためのものです。また、注意事項は、危害や損害の大ききや切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをするときにご注意される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

注意：人が傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

- 記号は行為を禁止する内容を表すものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を表すものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください)が描かれています。

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解・修理・改造をしないこと
分解・修理・改造禁止
- アースを確実に取り付けること
アースを取り付ける
- 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口(給気口)により十分給気される配慮をすること
取付注意
- 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラスタネットなど)と接触しないよう取り付けすること
取付注意
- 交流100V以外では使用しないこと
使用禁止
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
- メタルス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けすること
取付注意
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すこと、不燃材料を覆うこと
取付注意
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
埋込禁止
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
取付注意

注意

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
接触禁止
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること
取付注意
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
取付禁止
- 作業は2人以上でおこなうこと
取付注意
- 部品の取り付けは確実にすること
取付注意
- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
手袋をする
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
使用禁止
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
使用禁止

取り付け上のお願ひ

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。
 - 大工工事(設置のための下地工事等)
 - 配線工事(コンセントの設置、コンセント・コネクター・利用以外の配線接続等)
 - 管工事(ダクト配管及びレンジフードからのダクト接続等)
 - 流通業者(販売店)を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。調理機器はレンジフードの前より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 汚れを除去する際にはシンナー等の有機溶剤を使用しないでください。塗装面が変色したり、はがれたりすることがあります。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m³/h時50Pa以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- ダクトの不燃処理について
 - ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
 - 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けください。なお、レンジフードの下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で料理される場合は、油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 寒い地域ではダクトが結露しレンジフード内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいじりやすく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用座ねじが確実に届くことを確認してください。また、横方向50cm以上離して取り付けてください。湯沸器の上には高熱になるため故障の原因になります。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向50cm以上離して取り付けてください。湯沸器の上には高熱になるため故障の原因になります。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm³程度の空気取入口を設けてください。
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください。(目安:勾配1/100~1/50程度)雨水の浸入や結露水の逆流の原因となります。

取り付け前の調査と準備

警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
分解・修理・改造禁止
- レンジフードは、薄板の金属部(壁内ラスタネットなど)と接触しないよう取り付けすること
取付注意
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
取付注意
- 排気工事をされる場合は建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
取付注意

注意

- 取り付けの際は、必ず厚手の手袋をすること
手袋をする
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
取付禁止

1. 取付面の強度確認……製品を支える強さが必要です。
■板張りの場合(取付面は必ず不燃処理をおこなってください)
● 板厚が20mm以下の場合には壁に補強板を埋め込み補強板にレンジフードを取り付けてください。
● 板厚が20mm以上の場合には補強板の必要はありません。
■コンクリート、タイル壁の場合
● あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。
■土壁の場合
● 柱などに固定した補強板をあらかじり壁に埋め込んでください。

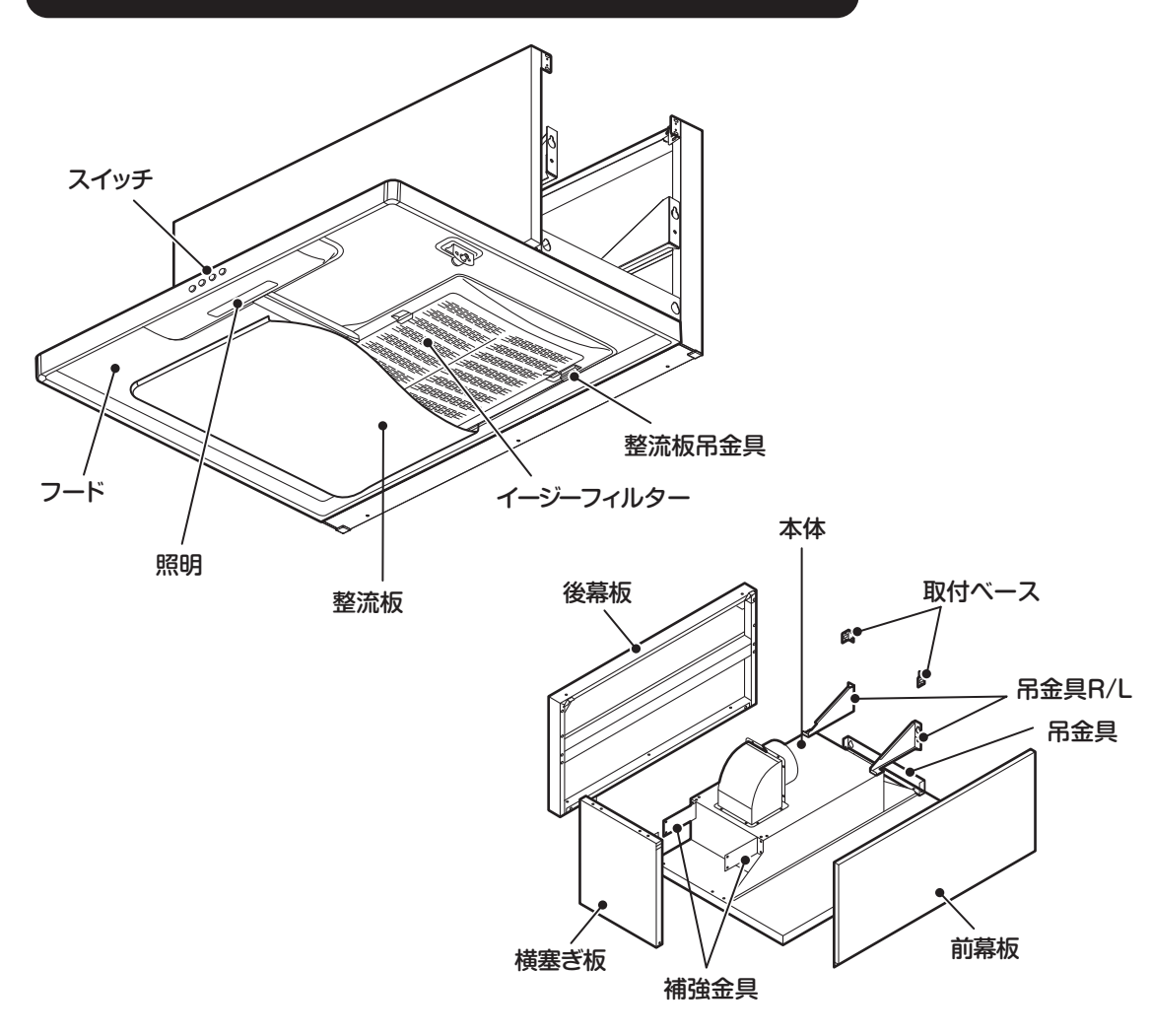
2. 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

3. 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は調理機器の上からレンジフードの下端まで80cmです。
※火災予防条例では、クロスフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となっています。

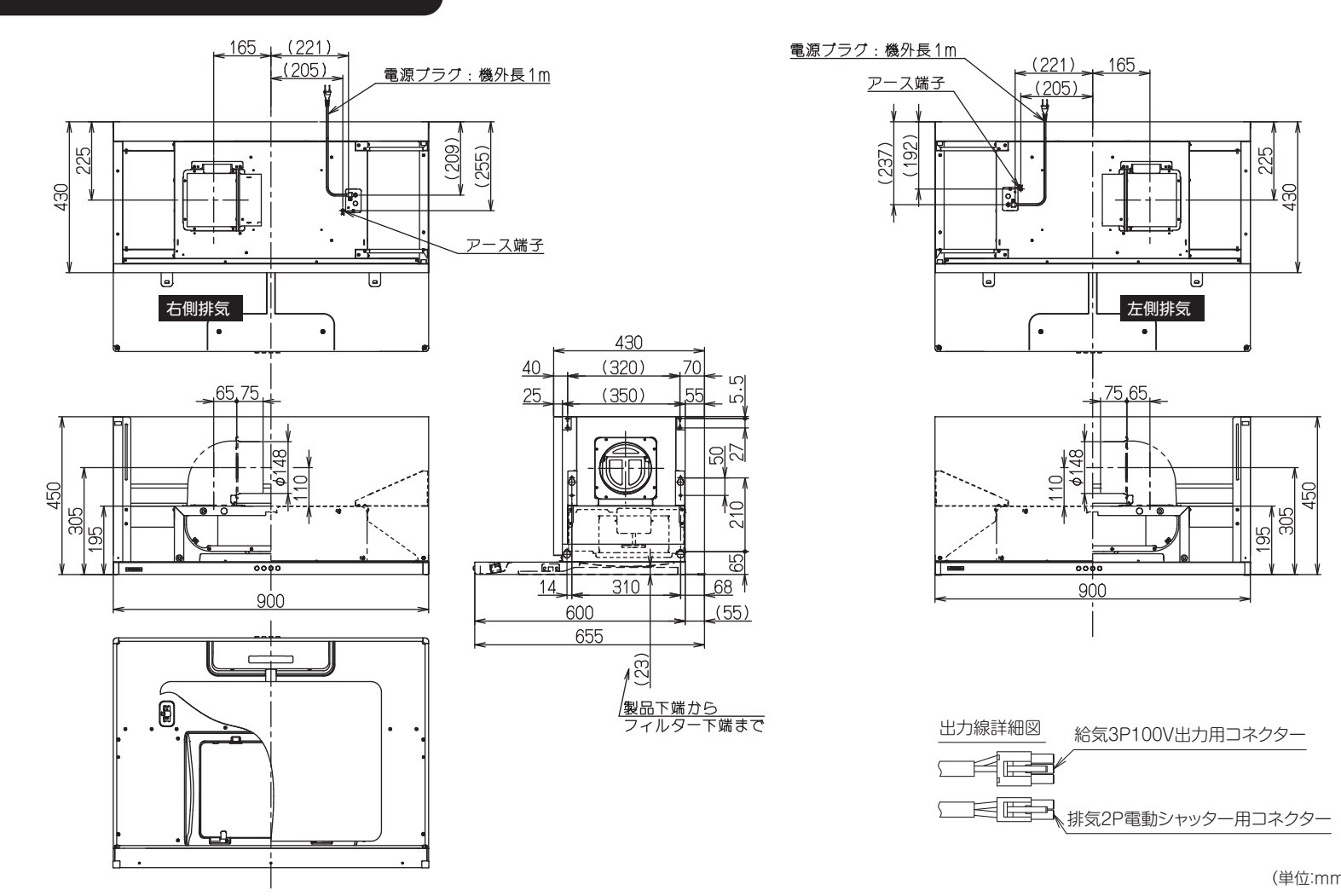
4. 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。(交流・単相 100V)コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器(15A125V)をご使用ください。

お願い 必ずアース(D種接地工事)をしてください。レンジフードが誤作動することがあります。

各部のなまえ



製品寸法図



取り付けかた

本製品は右壁および左壁取り付けの2種類がありますが、取り付け方法は同じです。本説明書では右壁取り付け用で説明しています。

1. 付属品の確認

注意

- 取り扱いは、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
手袋をする

レンジフードの付属品、および以下の付属品一覧により不足がないか確認してください。

お願い

- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
- 床で作業をおこなう場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
- 保護用のクッション材は「3.本体の準備」において整流板をはずす際には必ずしてください。
- フード下側を下側にして床に置く場合は整流板をはずしてください(整流板が変形してしまうため)。
※ はずした整流板にキズをつけないようにご注意ください。
整流板は本体の取付作業後、忘れずに取り付けてください。

付属品

- トラスTPねじ (M4×10) : 4本
前扉板、横置き板の取り付けに使用します。
- トラス小ねじ (M4×8) : 2本
後扉板の取り付けに使用します。
- 座付ねじ (φ5.1×45) : 4本
フード本体の取り付けに使用します。
- 引掛ねじ (φ5.1×35) : 2本
フード本体の取り付けに使用します。
- トラスSタイトねじ (M4×10) : 2本
吊金具の取り付けに使用します。
- ナベSタイトねじ (M4×8) : 20本
横置き板、吊金具R/L、補強金具、排気口の取付に使用します。
- L型ダクト : 1個
排気口と組み合わせて使用します。
- 排気口 : 1個
本体とダクトの接続に使用します。
逆風防止シャッター付です。
- ソフトテープ : 1本
排気口とダクトのすきまをふさぐのに使います。
- 取付ベース : 2個
前・後扉板の取り付けに使用します。
- 丸木ねじ (φ4.1×16) : 4本
取付ベースの取り付けに使用します。
- コンクリート用ねじ (φ4×25) : 4本
取付ベースの取り付けに使用します。
- 吊金具 : 1個
フード本体の取り付けに使用します。
- 吊金具R/L : 2個
フード本体の取り付けに使用します。
- 補強金具 : 2個
フード本体の取り付けに使用します。
- 前扉板 : 1枚
フード本体前面の目隠しに使用します。
- 横置き板 : 1枚
フード本体側面の目隠しに使用します。
- 後扉板 : 1枚
フード本体後面の目隠しに使用します。

2. 排気方向の決定

警告

- メタルス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けすること
取付注意
- 排気工事をされる場合は、建築基準法(同施行令)および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
取付注意
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
取付注意

注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと(浴室用換気扇をお使いください)
使用禁止
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
取付禁止

① 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者(法的有資格者)へ壁穴の開口を依頼してください。(ダクトの風漏れ防止のテーピング作業ができるよう、壁穴は大きめに開けてください。)また、コンセントの位置を確認してください。

② φ150のステンレスダクト、またはスパイラルダクトをレンジフードの上部に突き出すようにセットして周囲を仕上げてください。

正面図

3. 本体の準備

注意

- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります
取付注意
- 部品の取り付けは確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります
取付注意
- 本体に付属品を取り付けるねじは、電動ドライバー等を使用せず手回しドライバーで締め付けると強いトルクで締め付けると、ねじ穴が破損することがあります
取付注意
- 作業は2人以上でおこなうこと
レンジフードは約21kgの重さがあります
取付注意

1 整流板をはずします。

- ① 整流板の左右を両手で支え、少し押し上げます。
- ② 左右のストッパーを押し込みながらゆっくりと10cm程度おろした状態で、整流板の後ろを持ち上げ、整流板吊金具からはずして手前へ取りはずします。

お願い 必ず左右同時にはずしてください。整流板吊金具の変形の原因になります。

2 吊金具R/L、吊金具および補強金具を取り付けます。

- ① 壁側に吊金具 R/L (2個) を付属品のナベSタイト (M4×8) 各4本でファンユニットに取り付けます。
- ② 壁側に吊金具 (1個) を付属品のトラスSタイトねじ (M4×10) 2本でフードに取り付けます。

3 壁側と反対側に補強金具(2個)を付属品のナベSタイト (M4×8) 各2本でファンユニットに取り付けます。

4 排気口を取り付けます。

排気口に付属品のソフトテープを貼り、L型ダクトに取り付けます。取付方向は、シャッターの開閉方向が下方になり、レンジフードを運転していないときはシャッターが閉じるように取り付けます。排気口は、取付ねじ(M4×8) 4本でL型ダクトに取り付けてください。※ 本体への取り付けは、本体の取り付け後におこないます。(S.ダクトと排気用部品の接続)参照)

4. 本体の取り付け

注意

- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります
取付注意
- 部品の取り付けは確実にすること
落下によりけがをするおそれがあります
取付注意
- 作業は2人以上でおこなうこと
レンジフードは約21kgの重さがあります
取扱注意

お願い 必ず厚手の手袋をすること(組み込む部材は不燃材のものを使用すること)

- レンジフードの前後および左右方向の水平を確実にしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ(油)が各部のすきまから調理面に滴下することがあります。
- キッチンパネルの上端部をレンジフード下部壁面に入れ込んで設置する場合、レンジフードと壁のすきまに積み込む部材は不燃性のものを使用してください。可燃物を使用した場合、火災の原因になるおそれがあります。

1 本体だるま穴用座付ねじ2本と引掛ねじ2本を壁面にねじ込みます。

お願い ねじの位置出しは確実にしてください。製品が水平に設置されていないと、付属品の取り付けに支障が生じるおそれがあります。

- ① 製品寸法図を参照し、上側のだるま穴位置(2ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45) 2本をねじ込み、壁面とのすきま5mmまで締め付けます。
- ② 製品寸法図を参照し、下側のだるま穴位置に付属品の引掛ねじ(φ5.1×35) 2本をねじ込みます。
※ 引掛ねじの頭部が壁面に食い込まない程度に締め付けてください。引掛ねじの頭部が壁に食い込んでしまうと本体が取り付けられないおそれがあります。

2 取付ベースを取り付けます。

- ① 製品寸法図を参照し、付属の丸木ねじ(φ4.1×16) 各2本で取付ベースを壁面に固定します。

3 レンジフードを取り付けます。

- ① レンジフードを持ち上げ、壁面にねじ込んだ座付ねじ2本に吊り金具上側のだるま穴を、引掛ねじ2本に下側のだるま穴を引っ掛けます。
- ② 座付ねじをしっかりと締め付け、吊金具R/L上部の取付穴(左右各1ヶ所)に付属品の座付ねじ(φ5.1×45) 2本をしっかりとねじ込んで固定します。

取り付けかたは裏面に続きます。

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のご注意は表面をご覧ください。

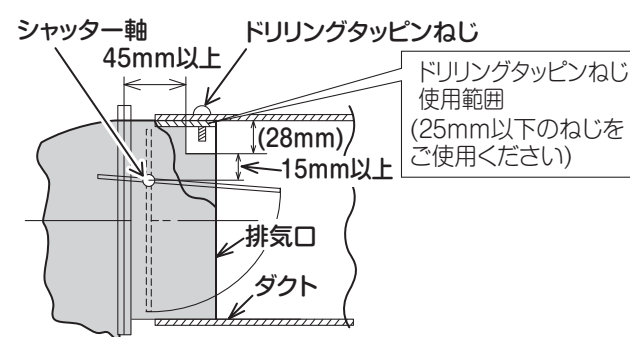
取り付けかた

「4.本体の取り付け」の説明から続く

5.ダクトと排気用部品の接続

お願い

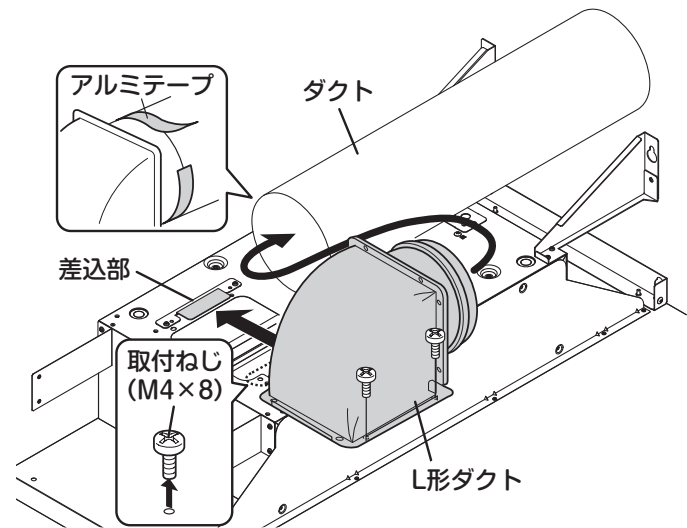
ドリリングタップピンなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図のドリリングタップピン使用範囲内に固定してください。



1 排気口を取り付けます。

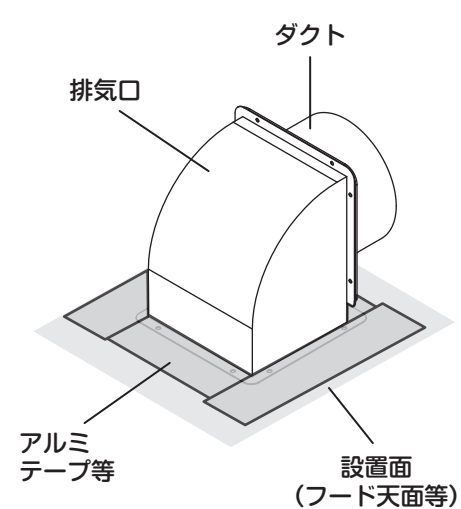
本体排気口取付位置に取り付いている取付ねじ2本をはずした後、L形ダクトを本体上部の排気口差込部に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、はずした取付ねじ2本で取り付けます。

2 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。



■排気口設置面の漏風確認のお願い

排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとする、排気口と排気口の設置面（フード天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。



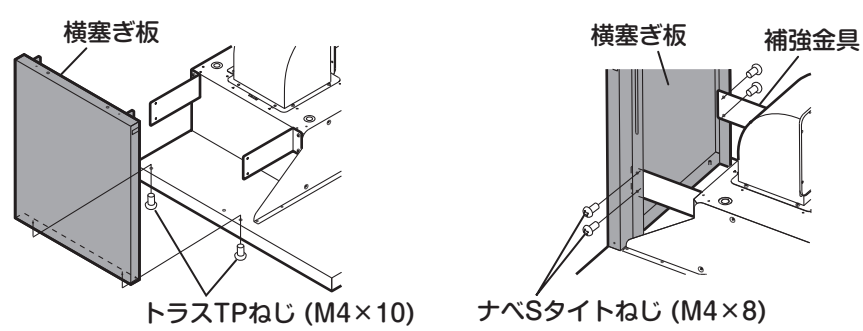
6.幕板の取り付け

お願い

本体と各幕板との端面やすきまが均一になっているか確認してください。端面のスレやすきまが生じている場合は均一になるよう調整してください。

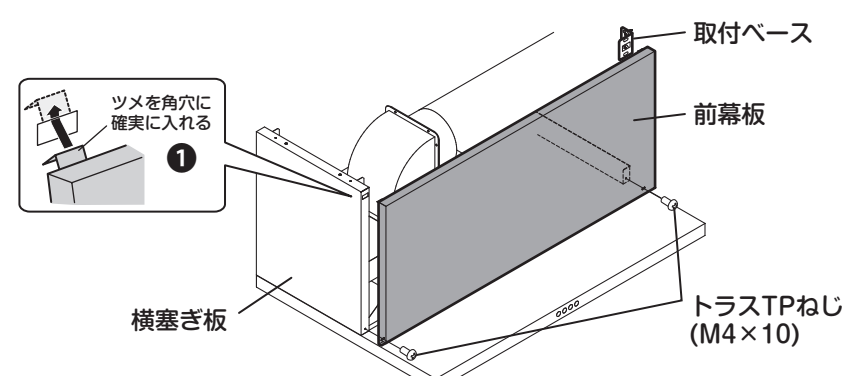
1 横塞ぎ板を取り付けます。

- 付属品のトラス TP ねじ (M4×10) 2本で横塞ぎ板下部をレンジフード側面に固定します。
- 付属品のナベS タイプねじ (M4×8) 各2本で横塞ぎ板と補強金具を固定します。



2 前幕板を取り付けます。

- 前幕板上部左右のツメを横塞ぎ板と取付ベースの角穴に引っ掛けます。
- 下側2ヶ所を付属品のトラス TP ねじ (M4×10) 2本で固定します。

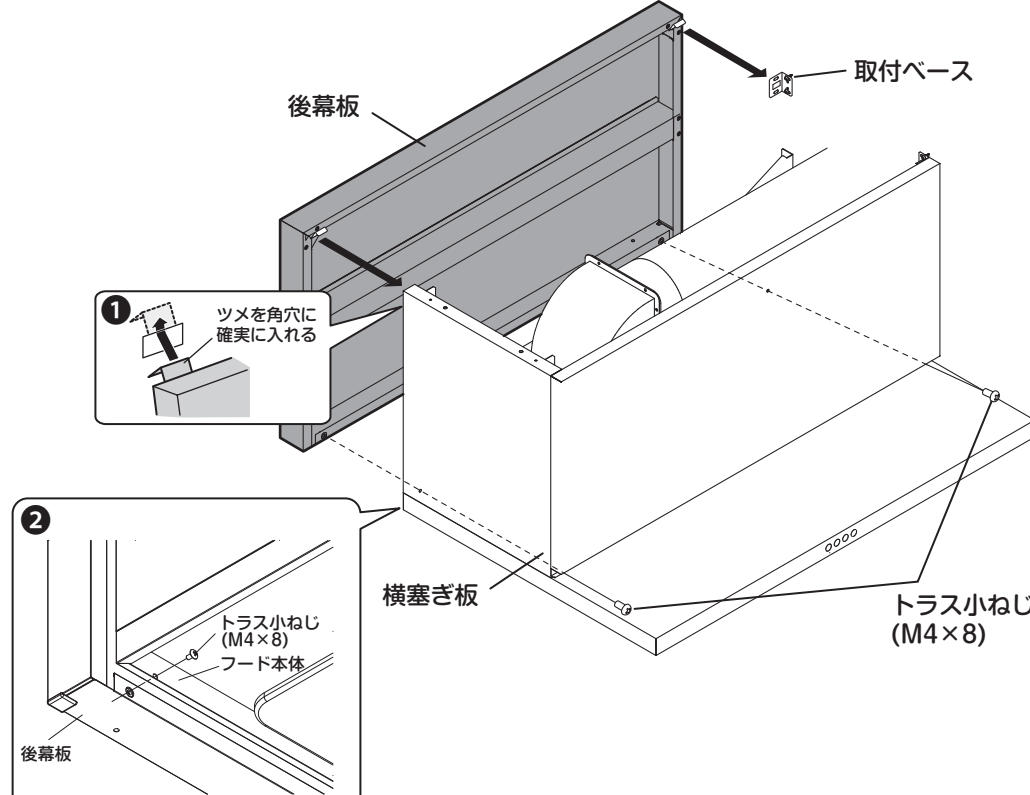


お願い

- ねじは手回しドライバーで締め付けてください。
- ツメを角穴に確実に入れてください。前幕板の倒れや落下の原因となります。

3 後幕板を取り付けます。

- 後幕板上部左右のツメを横塞ぎ板と取付ベースの角穴に引っ掛けます。
- 下側2ヶ所を付属品のトラス小ねじ (M4×8) 2本で固定します。



お願い

- ねじは手回しドライバーで締め付けてください。
- ツメを角穴に確実に入れてください。後幕板の倒れや落下の原因となります。

7.電気配線

警告

	●修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと 発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
	●交流100V以外では使用しないこと 火災・感電の原因となります
	●配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと 誤った配線工事は感電や火災の原因となります
	●アースを確実に取り付けること 故障や漏電のときに感電するおそれがあります アースの取り付けは販売店にご相談ください

分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

- ##### お願い
- 電源は専用のコンセント (2極差込接続器 15A、125V) およびブレーカーを設けてください。
 - 「9.試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
 - コンセントは電源コードの長さ (機外長約1m) を考慮し、設置してください。
 - 必ずアース工事 (D種接地工事) をしてください。

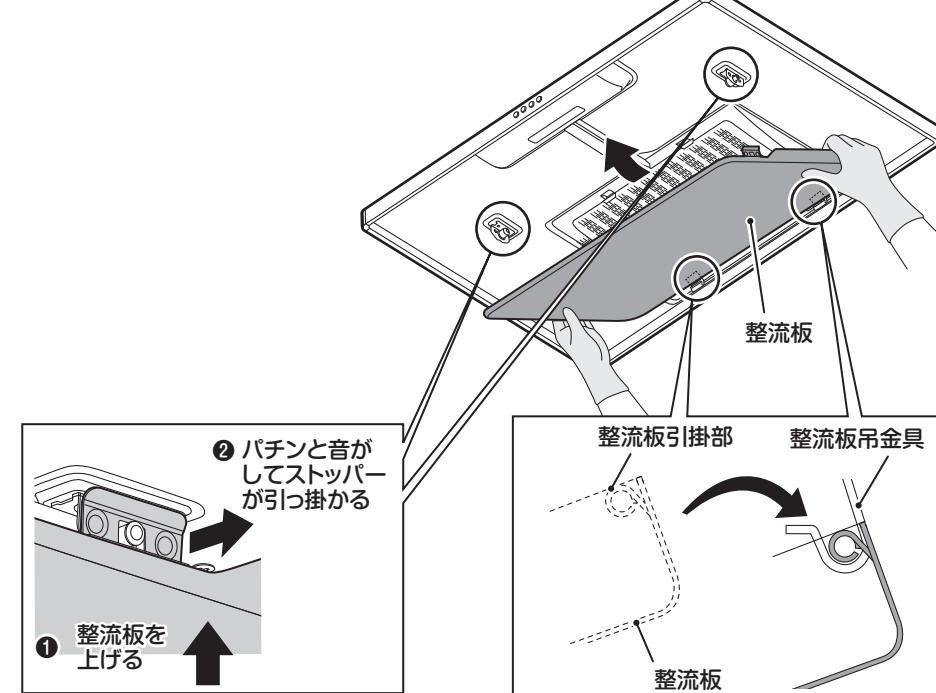
8.組み立て

お願い

整流板を取り付ける前に、イージーフィルターとヘルマウスを固定しているテープをはがしてください。部品の取りはずし方は取扱説明書を参照してください。

整流板を取り付けます。

- 整流板の左右を両手で支え、引掛部を整流板吊金具に引っ掛けます。
 - 整流板をゆっくり持ち上げてパチンと音がするまで押し込んでください。
 - 整流板を軽く上下に動かしてみて確実に取り付けられたことを確認してください。
- ※ 取り付けの際は、必ず左右同時に取り付けてください。整流板吊金具の変形の原因となります。



9.試運転

- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速調の排気が正しく行われていることを確認してください。
- 異音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気されていることを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますのでご注意ください。

10.お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

製造元： **-FUJIOH-** 富士工業株式会社
〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1番9号
TEL 042 (768) 3754 (営業部)